令和４年度　学校自己評価システムシート（県立飯能高等学校）

目指す学校像	・地域に根ざし、高い志を持ち、社会に貢献できる生徒を育む学校

重点目標	
	１　ステップアップクラス編成を中心に、学力向上と進路実現を目指す ２　人間としての在り方生き方教育を進め、高い志を育成し、自己実現を目指す ３　開かれた学校として情報を発信し、地域に根ざした魅力ある学校を目指す ４　教職員の働き方改革に向けて学校全体で業務の見直しや効率化を推進する

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校評議員会・学校評価懇話会

委員　　名から意見等を聴取

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（　月　日　現在）			実施日令和　年　月　日
番	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 ・ステップアップクラス編成により生徒の多様な進路希望に応えている。 ・全体で取組む英語検定で受験者が増加している。 ・Google クラスルームを活用したＨＲや授業の運営が実施できている。 ・新校開校に向けてあらゆる機会をとらえて、探究的な学びの実践を推し進めている。 ・新校のシステムについて、令和５年実施を目指し検討している。 【課題】 ・現在実施している少人数学級編制、少人数・習熟度別授業を検証し新校での教育体制を構築する。あわせて新校での教育課程についてさらに研究を進め編成する必要がある。 ・学習習慣が確立し学習時間が増加するように、また英語検定で合格者増につながるように指導を工夫する必要がある。	学習意欲を高め、生徒の進路実現につなげる教育指導計画の検討に取り組む	①単位制導入に備えて、ステップアップクラス編成に代わるシステムを構築するとともに、新校での教育課程を編成する。 ②新校に向けて各教科や探究的な学びにおいてＩＣＴを活用した授業実践する。あわせて県教委の施策を有効活用して探究的な学びを推進する。また、成果を授業公開やHPで公開する。 ③英語検定の受験を通じて英語４技能の向上を図るとともに、上位合格者が増加するよう取組む。 ④生徒の自学自習の習慣化に向け、生徒及び保護者向けの面談やガイダンス等を充実させ意識改革を図る。	①新しいシステムの構築と教育課程の編成ができたか。 ②授業公開の実施及び県教委の施策の活用は進んだか。また、その成果を積極的に発信したか。 ③英語検定等が実施され、受験者と合格者がともに増加したか。 ④家庭学習の時間は増加したか。				
2	【現状】 ・遅刻者カードの導入や整容指導等の成果が数値で表れ、成果を上げている ・コロナ禍で様々な行事が中止となり、多くの制約があり、活動できている部活動が一部にとどまっている。 【課題】 ・生徒の日常の姿勢は落ち着いているが、部活動を通しての高い志の育成と自己実現に向けた指導に繋がる部活動の活性化が急務であり、新校開設に備え、部活動の新設や統廃合を検討する必要がある。さらに、支援や配慮が必要な生徒について外部機関と連携して組織的に取組む必要がある。	生徒の自己肯定感を高める取り組みの充実を図る	①コロナ禍においても安心安全に配慮しながら、部活動及び学校行事の充実を図っていく。 ②学校全体できめ細やかな面談等を行い、生徒の実態把握に努め、支援が必要な生徒には校内委員会を中心に対応し、関係機関と連携した支援に繋げていく。 ③新校に向けて、部活動編成を検討し、部活の統廃合を行い、新校における部活動をより充実したものへ変える。	①部活動及び各種学校行事を実施し、生徒の満足度は高かったか。 ②生徒の実態把握はできたか。また、組織的にすすめ、他機関と連携ができたか。 ③部活動の編成ができたか。				
3	【現状】 ・ホームページのリニューアルや更新をしている。 ・飯能市役所及び商工会議所と連携し地元の観光及び産業資源等を活用した授業の検討を進めている。 ・コロナ禍の制約がある中で学校説明会を全職員で工夫して実施した。 【課題】 ・飯能市及び地域の様々な機関と連携を強化し、協働した「探究的な学び」の具現化を図り、継続して実践し、新校開校を見据え、新校に係る情報を外部に積極的に発信し認知度を上げる必要がある。	地域と連携して学校の魅力発信推進に取り組む	①飯能市及び商工会議所等と連携した探究的な学びの実践事例を増やしていく。 ②学校説明会等を改善するなど、中学生及び保護者をはじめ、関係者への情報提供を全校で組織的に取組む。 ③ホームページの適宜更新をはじめ、新校に関する情報をあらゆる機会を通して積極的に発信していく。	①地域と協働した探究的な学びの実践事例を外部に公表できたか。 ②説明会への参加者数が昨年度の 1．5倍以上となったか。 ③ホームページの更新回数とアクセス回数が前年度に比べともに増加したか。				
4	【現状】 ・通常業務、感染症対応及び新校に向けての準備等が重なり、業務量が増加し、多忙化に拍車がかかっている。 ・昨年度校務分掌の再編成をおこない、業務の集中の是正を図っているがいまひとつである。 【課題】 ・分掌の再編によって業務の是正がされたか、組織の人数が適切であるか検証しつつ、校務の負担軽減と効率化について、教員一人ひとりの多忙感の解消も含み、業務に優先順位を付け学校全体で ICT の活用等様々な取組を推進する必要がある。	各分掌等で業務の洗い出し及び見直しを進める	①各分掌で業務の進捗状況や業務内容を確認するとともに、業務の優先順位を付け、負担の軽減に繋げる。 ②分掌再編による業務負担の軽減について検証し、新校の分掌を改編する。 ③ＩＣＴ活用により業務の効率化を促進し作業の軽減を図る。	①各分掌で業務に優先順位をつけ、業務削減を進めたか。 ②検証し改編できたか。 ③ＩＣＴ化によって業務を軽減できたか。				